



梅毒の年間報告数が過去最多となりました

滋賀県における梅毒の報告数は、感染症に基づく調査が開始された1999年以来、2022年の69例が最多でしたが、2023年第49週(12月4日～12月10日)時点で70例となり過去最多となりました。

マスコミの皆様には、梅毒の感染経路、症状、予防方法等の特徴や検査の重要性の周知について、改めてご協力いただきますようお願いいたします。

滋賀県内の梅毒の発生動向

梅毒は、性的な接触(他人の粘膜や皮膚と直接接触すること)などによってうつる感染症です。原因は、梅毒トレポネーマという病原菌で、感染すると全身に様々な症状が出ます。

本県における梅毒の報告数は、2016年から2020年の5年間は30例前後の報告でしたが、2022年に大きく増加し69例と過去最多となりました。しかし、2023年は第49週(12月4日～12月10日)時点で70例と昨年を超えました。

性別では、女性に比べ男性の方が多く報告されている一方、20代の女性での増加が目立ちます。年代別では、男女とも20歳代が最も多いなど若い世代で報告されています。

梅毒の特徴

● 感染経路

感染部位と粘膜や皮膚の直接の接触で感染します。具体的には、性器と性器、性器と肛門(アナルセックス)、性器と口の接触(オーラルセックス)等が原因となります。

● 症状

感染したあと、経過した期間によって症状の出現する場所や内容が異なります。

第Ⅰ期：感染後約3週間

初期には、感染がおきた部位(主に陰部、口唇部、口腔内、肛門等)にしこりができることがあります。また、股の付け根の部分(鼠径部)のリンパ節が腫れることもあります。痛みがないことも多く、治療をしなくても症状は自然に軽快します。

しかし、体内から病原体がいなくなったわけではなく、他の人にうつす可能性があります。感染した可能性がある場合には、接触から3～4週間後に梅毒の検査が勧められます。

第Ⅱ期：感染後数か月

治療をしないで3か月以上を経過すると、病原体が血液によって全身に運ばれ、手のひら、足の裏、体全体にうっすらと赤い発疹が出ることがあります。小さなバラの花に似

ていることから「バラ疹」と呼ばれています。発疹は治療をしなくても数週間以内に消える場合があります、また、再発を繰り返すこともあります。しかし、抗菌薬で治療しない限り病原体は体内に残るため、梅毒が治ったわけではありません。

晩期顕症梅毒：感染後数年

感染後、数年を経過すると、皮膚や筋肉、骨などにゴムのような腫瘍（ゴム腫）が発生することがあります。また、心臓、血管、脳などの複数の臓器に病変が生じ、場合によっては死亡に至ることもあります。

また、妊娠している人が梅毒に感染すると胎盤を通して胎児に感染し、死産、早産、新生児死亡、奇形が起こることがあります（先天梅毒）。

● 感染予防

感染部位と粘膜や皮膚が直接接触しないように、コンドームを使用することが勧められます。ただし、コンドームが覆われていない部分の皮膚などでも感染が起こる可能性があるため、コンドームを使用しても100%予防できると過信はせず、皮膚や粘膜に異常があった場合は性的な接触を控え、早めに医療機関を受診して相談しましょう。

また、不特定多数との性的接触は控えましょう。

保健所での検査

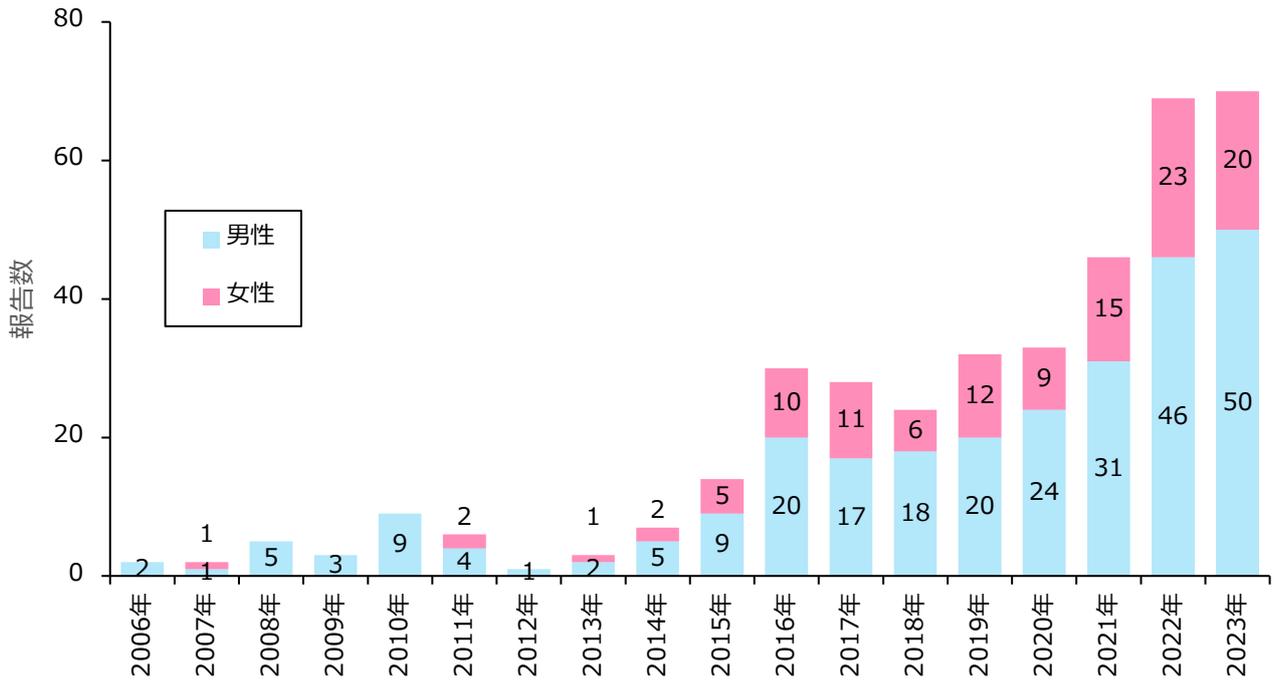
滋賀県では、無料・匿名での検査を実施しています。検査を希望される方は保健所までご相談ください。

明らかな自覚症状がある場合、パートナーの感染が明らかな場合は、検査を実施している医療機関を受診し相談しましょう。

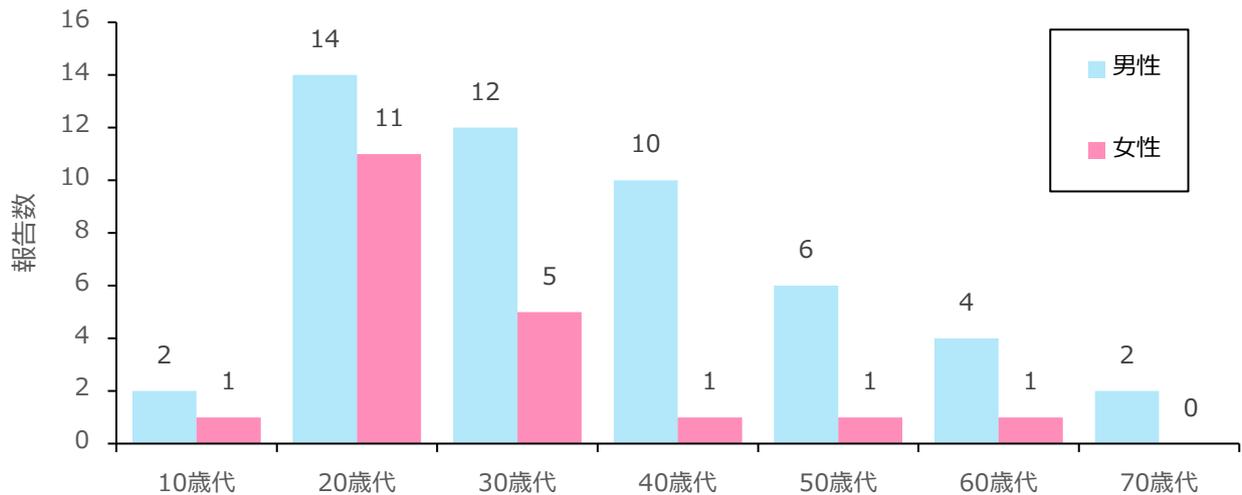
保健所名	電話番号	検査受付日時	予約制
草津保健所	077-562-9044	第2・4水曜日：午後1時15分～3時15分	有
甲賀保健所	0748-63-6147	第3水曜日：午前9時15分～10時15分	有
東近江保健所	0748-22-1253	第1水曜日：午前9時～10時15分 第3水曜日：午後2時～3時15分	有
彦根保健所	0749-21-0283	第1・3火曜日：午後2時～3時20分	有
長浜保健所	0749-65-6662	第1火曜日：午前9時20分～10時40分 第4火曜日：午後1時～2時20分	有
高島保健所	0740-22-2526	第2火曜日：午前9時30分～11時	有
大津市保健所	077-526-6306	第2・4水曜日：午後1時15分～2時15分	有

※祝日等の休暇等により一部日程が変更になることがあります。

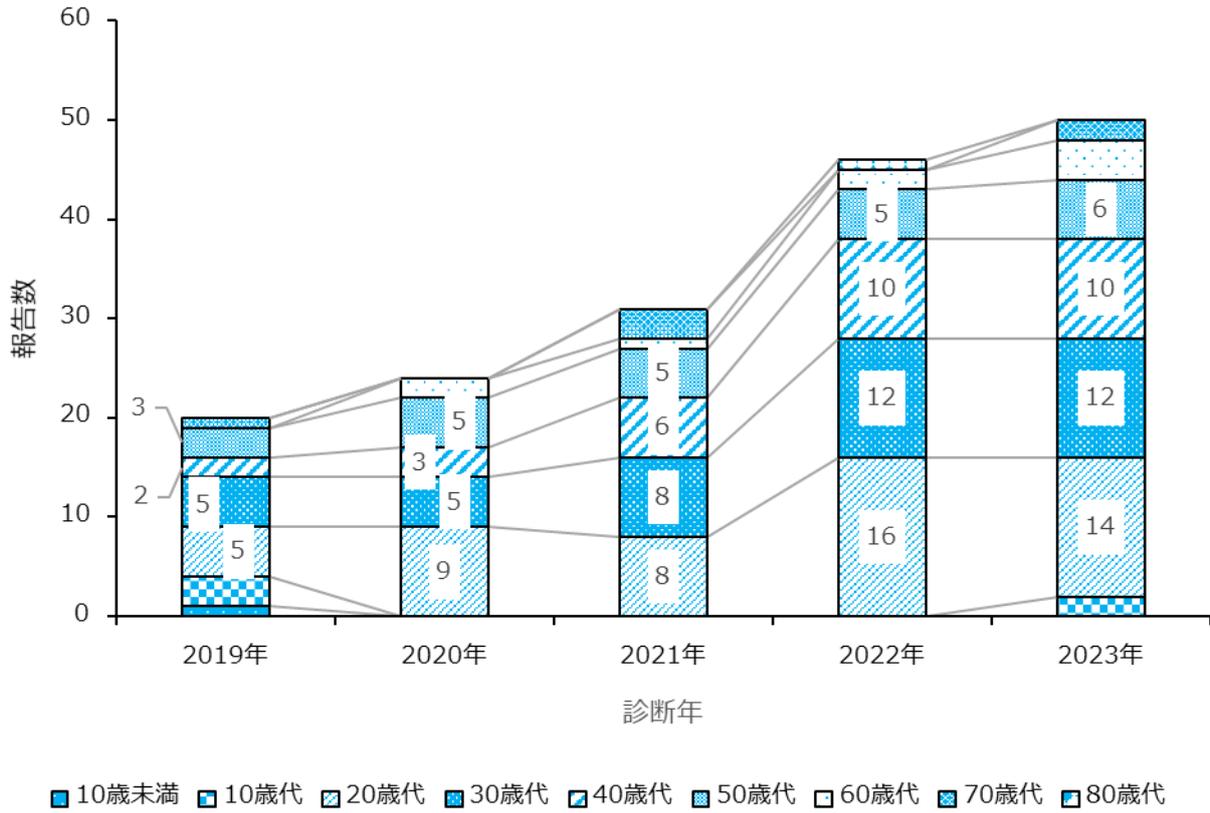
- 男女別の年間報告数の推移（滋賀県） ※診断週で集計・2023年は第49週(12月10日)現在



- 年代別報告数（2023年・滋賀県） ※2023年第49週(12月10日)現在

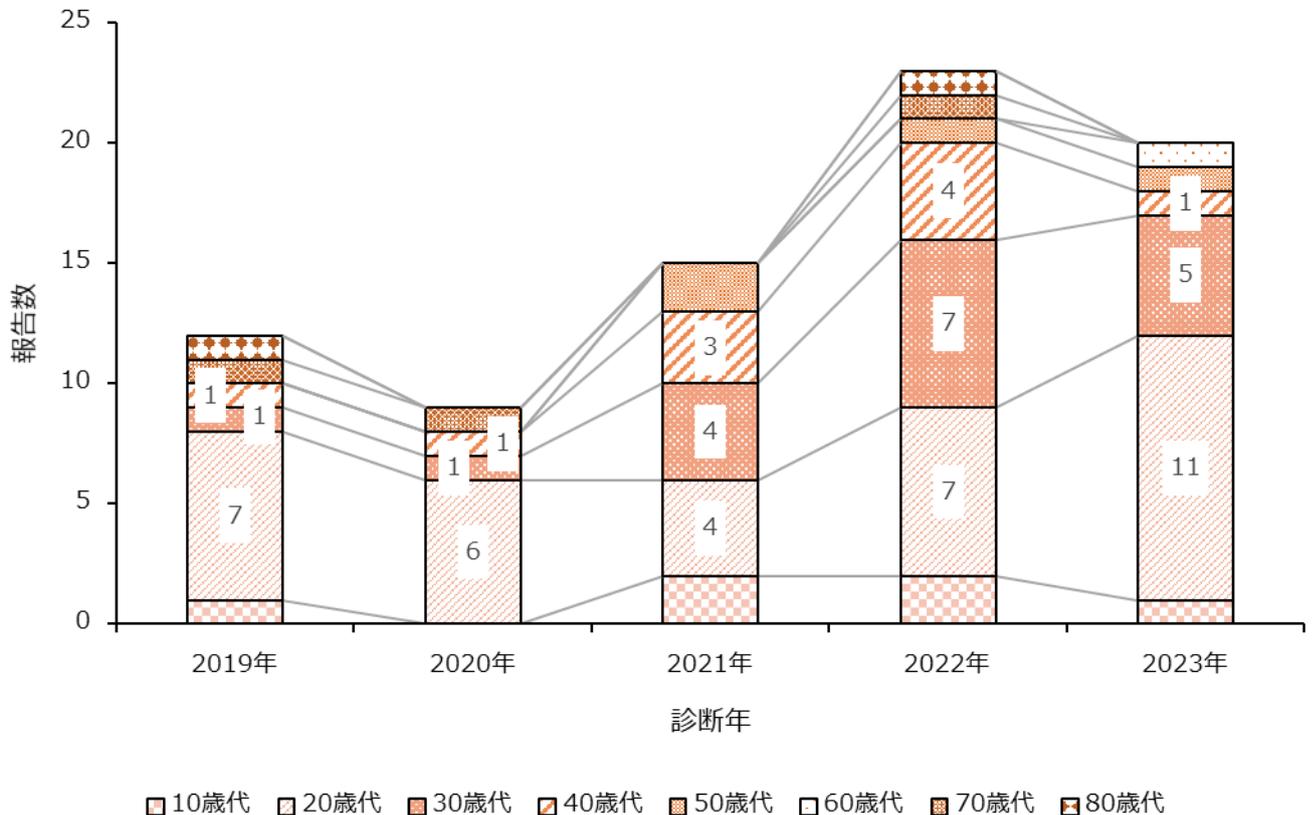


● 男性の年別年代別報告数の推移（滋賀県） ※診断週で集計・2023年は第49週(12月10日)現在



注) 年代別の報告数の増減を分かりやすくするため、20歳代～50歳代までの実数を記載

● 女性の年別年代別報告数の推移（滋賀県） ※診断週で集計・2023年は第49週(12月10日)現在



注) 年代別の報告数の増減を分かりやすくするため、20歳代～40歳代までの実数を記載

参考情報

Q1 一度梅毒になったので、もう免疫があると考えてよいですか？

梅毒の感染は、医師が検査で血液中の免疫（抗体）を確認して判断をします。感染した人の血液中には、一定の抗体がありますが、再感染を予防できるわけではありません。このため、適切な予防策（コンドームの使用、パートナーの治療等）が取られていなければ、再び梅毒に感染する可能性があります。

Q2 保健所での検査数の推移は？

保健所での検査件数は、コロナ流行後に減少しましたが、令和5年度（9月末時点）は昨年と比較して検査件数が増加傾向にあります。

検査を希望される場合は、直接保健所にお問い合わせください(本資料2ページ目を参照)。

表. 梅毒にかかる検査件数と陽性者数

年度	H29	H30	H31	R2	R3	R4	R5*
検査件数	739	856	808	547	438	583	367
陽性者数	3	5	9	7	3	19	11

*令和5年9月30日現在

Q3 梅毒患者の増加要因はなにか？

近年全国的に梅毒患者が増加していますが、明確な増加要因は不明です。2023年8月4日に掲載された国立感染症研究所実地疫学研究センター、感染疫学センターによる「感染症法に基づく梅毒届け出状況 2021年」によると、男女ともに梅毒報告数の全体の増加とともに、異性間性的接触の割合が増加しています。

また、国立感染症研究所が発刊している2020年1月号のIASRによると、不特定多数の人との性的接触が梅毒感染リスク因子であり、その際のコンドームの不適切な使用はリスクを高めることが報告されています。これらのことが、増加要因の一つと考えられます。

Q4 どのような治療が行われますか？

一般的には、外来で処方された抗菌薬を内服することで治療します。内服期間等は病期により異なり、医師が判断します。病変の部位によっては入院のうえ、点滴で抗菌薬の治療を行うこともあります。早期発見が重要となります。

医師が治療を終了とするまでは、処方された薬は確実に飲みましょう。性交渉等の感染拡大につながる行為は、医師が安全と判断するまではひかえましょう。また、周囲で感染の可能性がある方（パートナー等）と一緒に検査を行い、必要に応じて、一緒に治療を行うことが重要です。